

# FIT認証団体を設立

## 木質バイオマスの利用推進へ

ホクザイ運輸／北九州市など



市や森林組合など関係者が集まり設立総会を開催

ホクザイ運輸（北九州市、河本一成社長）は3月26日、同社事務所で「北九州地域木質バイオマス利用推進」の設立総会を開催し、北九州市など関係団体が集まり、新たなFIT認証団体を立ち上げた。役員選出では、会長に北九州市産業経済局農林水産部農林課の森元義男課長、監査役として北九州市環境局環境経済部地域エネルギー推進課の岡島昭男課長が選出された。事務局は、ホクザイ

運輸の河本一成社長が担う。北九州地域内（福岡県北部）の木質バイオマスを扱う林業事業者を認定し、育成することで林業の活性化とさらなる木質バイオマスの利用推進を目指す。FITの対象となる間伐材等の木質バイオマスは、山林から発電所に持ち込まれるまでの各段階で由来証明の連鎖が必要となる。林野庁の「発電利用に供する木質バイオマス証明のためのガイドライン」に則った形で、適切な木質バイオマスの管理が可能であるという

認定を受けなければならない。非認定の林業事業者がチップ工場へ由来を証明できない間伐材等を持ち込んだ場合、FITにおける売電価格が最も低い区分「建設資材廃棄物およびその他の木質バイオマス」とされ、取引価格に大きく影響する。小規模な林業事業者にとって認定を受けるには、高額な認定料や認定団体への加入条件などハードルが高く、同会はそうした障壁を取り除いた形で、積極的に地域内の林業事業者へ働きかけ、認証先を増やす考えだ。事業者認定審査会は、会員の京都（みやこ）森林組合とホクザイ運輸が主体となり構成。すでに

市内数社の林業事業者から問い合わせを受けており、審査を経て認定を急ぐとした。また同社は、同日、木質バイオマスの適正な取り扱いが可能な事業者を育成するために、証明に係る分別・管理徹底のための勉強会の開催や、地域内山林事業の強化を図るための情報共有などを目的とした「北九州地域木質バイオマス推進組合」を設立。北九州地域木質バイオマス利用推進会が認定した事業者だけでなく、他地域からも組合員を募り、「持続可能な森林経営や地域の素材生産機能の向上を図るための施策等への提言活動なども行っていく」とした。

## 処理の現状など説明

生コン残コンソリューション技術研究会

コスト大きく、改善目指し

生コン残コンソリューション技術研究会（東京・港、野口貴文代表理事）は3月23日、生コンを製造する内山アドバンス（千葉県浦安市、柳内光子社長）にて分科会を開催し、関係する商社やセネコン、研究者、メディア

などに向けて残コン・戻りコンの現状について説明した。柳内社長は開会にあたり「われわれは生コン事業に誇りを持って

いるが、さまざまな原因により貴重な資源であるコンクリートが残コン・戻りコンとして捨てられる状況が続いている。多くの方にこの現状を理解していただきたい」と述べた。



「貴重な資源であるコンクリートが捨てられている」と柳内社長

一般的に残コン・戻りコンとは、工事現場で少量でも荷卸しされた後、ドラム内に余ったものや、現場で荷卸しされる前に不要となった生コンなど。現場から戻された生コンの水処理を行い砂・碎石、脱水ケーキ、上澄み水に分離する。その後、砂・碎石、脱水

い、その後、実際のコンクリートの処理のよ

うすなどの見学・意見交換を行った。